

中筋川総合開発事業（横瀬川ダム）の促進

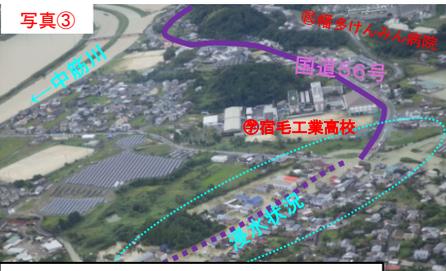
【現状と課題】

- ◆中筋川の上流は約1/80と急勾配であるが、平地に出ると約1/8,000と急激に緩勾配へ変化する。このため、平地部では本川である四万十川の水位の影響を受けるため、洪水が流れにくくなっており、中筋川ダム完成以降も、国道56号や住宅等が浸水するなど、沿川の社会・経済活動に大きな支障が発生
- ◆ダム下流の上水道の給水区域では、濁水時に水源の水位が低下し、増水時には濁水が発生するなど、安定かつ衛生的な給水ができない状況



平成31年度完成が待ち望まれる横瀬川ダム

- ◇総事業費 400億円 (H29迄の進捗率72%)
- ◇ダム諸元 堤高 H=72.1m 堤頂長 L=188.5m
- ◇経過(現地状況)
 - H28. 6. 20 本体工事契約
 - H28. 11. 13 本体工事起工式
 - H29. 5. 10 本体コンクリート打設開始
 - H29. 12. 03 本体定礎式



水道供給区域
 浸水想定区域
 確率規模1/100
 H16年10月の
 浸水区域

年月	洪水	被害状況
昭和47年7月	台風9号	浸水面積872ha、浸水家屋548戸、国道冠水22時間
昭和50年8月	台風5~6号	浸水面積3,216ha、堤防破堤、浸水家屋570戸、全半壊45戸、国道冠水6時間
昭和54年9月	台風16号	浸水面積161ha、浸水家屋186戸、半壊家屋4戸、国道冠水18時間
昭和55年8月	豪雨	浸水面積458ha、浸水家屋29戸
昭和55年10月	台風19号	浸水面積152ha、浸水家屋8戸
昭和57年8月	台風19号	浸水面積171ha、浸水家屋4戸、国道冠水2時間
昭和57年9月	台風19号	浸水面積229ha、浸水家屋60戸、国道冠水12時間
平成元年8月	台風17号	浸水面積202ha、浸水家屋20戸、国道冠水12時間
平成2年10月	台風21号	浸水面積169ha、浸水家屋29戸、国道冠水10時間
平成9年9月	台風19号	浸水面積225ha、浸水家屋24戸、国道冠水16時間
平成11年4月	中筋川ダム 管理開始	
平成15年5月	台風4号	浸水面積274ha、浸水家屋25戸、国道冠水15時間
平成16年8月	台風10号	浸水面積368ha、浸水家屋61戸、国道冠水18時間
平成16年10月	台風23号	浸水面積493ha、浸水家屋81戸、国道冠水24時間
平成17年9月	台風14号	浸水面積547ha、浸水家屋67戸、国道冠水25時間
平成19年7月	台風4号	浸水面積472ha、浸水家屋2戸、国道冠水5時間
平成23年10月	豪雨	浸水面積312ha、浸水家屋3戸、国道冠水7時間
平成26年6月	豪雨	浸水面積361ha、浸水家屋118戸、国道冠水19時間
平成26年8月	台風11号	浸水面積410ha、浸水家屋5戸、国道冠水12時間
平成28年9月	台風16号	浸水面積440ha、浸水家屋14戸、国道冠水20時間



【効果】
 ○ダム完成後は道路冠水が軽減
 ○救急搬送の遅延を解消し、住民の安全と安心を確保できる



中筋川総合開発のきっかけとなった、昭和47年の洪水規模(戦後最大規模)に対応するためには、既に完成している中筋川ダムに加えて、**横瀬川ダムが不可欠。**

政策提言

中筋川沿川地域の浸水被害の軽減及び四万十市の上水道の安定的な供給を確保するため、横瀬川ダムの平成31年度完成に向け、事業計画にもとづいた、着実な事業投資をしていただくよう提言します。